

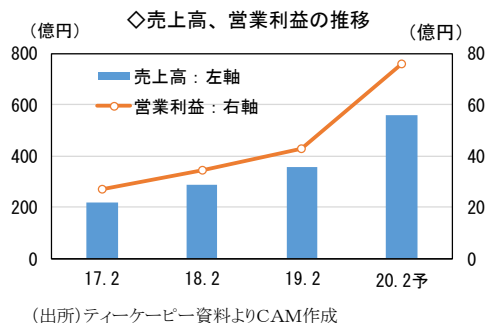
企業ニュース ティーケーピー

(東証マザーズ: 3479) <https://www.tkp.jp/>

作成者: 奥村義弘

高い成長性を持つシェアリングビジネスを展開

2005年設立。不動産オーナーから、遊休不動産を大口(割安)で仕入れ、会議室や宴会場などに「再生」し、利用者に小口で販売・シェアリングを行うビジネスモデル。目的や予算に応じて選べる5つのグレードで全国に2,500室超の会議室・宴会場を運営している。また、料飲・ケータリング事業、ホテル&リゾート事業、イベントプロデュース事業、コールセンター・BPO事業などの会議に付随する周辺サービスによる差別化や高付加価値化にも取り組んでいる。



M&Aに加え上位グレード、宿泊・研修施設の伸長が成長をけん引

20.2期・第1四半期(3-5月)の連結業績は、売上高が104億500万円、前年同期比14%増、営業利益が20億8,700万円、同18%増。企業の働き方改革の進展やイベント開催数などの増加により、フレキシブルに使えるオフィススペースの需要が高まっている。従来よりも高品質な貸会議室・ホテル宴会場の需要が高まり、当社の上位グレード施設の売上高が前年同期比53%増となった。インバウンド旅行客の増加や宿泊型研修の増加で、当社のビジネスホテルや宿泊研修ホテルの売上高も同66%増と伸長した。また、レンタルオフィスなどを展開する日本リージャス社の子会社化に伴い営業外費用8億円を計上した。

20.2期通期の会社計画は売上高が562億600万円、前期比58%増、営業利益が76億700万円、同77%増。8月16日に、8月9日に公表した台湾のリージャス事業13社の子会社化(買収額: 約29.3億円、10月に連結化)の寄与や、既存の国内会議室ビジネスの動向を踏まえ、上方修正した。

首都圏のフレキシブルオフィス市場は2019年の2,000億円から2030年には6兆円と拡大が見込まれる(ティーケーピー集計)。22.2期を最終年度とする新中計では、連結売上高約793億円、営業利益125億円を目指す。2019年7月現在の国内事業規模はTKP(貸し会議室・ホテル宴会場)・リージャス両ブランドで410拠点、48.7万㎡だが、2030年には約1,500拠点、約140万㎡への拡大を目指す。共同出店でオペレーションの効率化、付加サービス拡大なども進める。

[株価動向・投資判断]

成長性の高さを評価したい。今後はアジアなど海外での成長にも関心が集まろう。

<3479 TKP 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.2	28,689 (31)	3,449 (28)	3,200 (25)	2,071 (53)	64.0	0.00
19.2	35,523 (24)	4,289 (24)	4,053 (27)	1,893 (▲9)	58.1	0.00
20.2 予	56,206 (58)	7,607 (77)	5,913 (46)	2,863 (51)	87.6	0.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価(2019/9/2)	5,400 円
年初来高値(高値日)	5,920 円(19/6/11)
同 安値(安値日)	3,115 円(19/2/8)
予想P E R(20.2 予)	61.7 倍
1株株主資本(PBR算出用)	335.1 円
P B R	16.11 倍
予想配当利回り	0.00 %
(1株当たり配当金年0.00円)	
R O E(19.2)	19.6 %
発行済み株式数	3,320 万株